外国語(英語)科 学習指導案

日　時　令和７年 11 月 26 日(水)
第５校時　13：30～14：20
学校名
対　象　第 1 学年　　組　　名
会　場　1 年　　組　　教室
授業者

1　単元名

Program 4　“The Way to School”　*Sunshine English Course 1*　(開隆堂)

2　単元の目標

学級の仲間に自分のことについて知ってもらうために、自分の好きな有名人や歌手、映画やアニメの登場人物等を、簡単な語句や文を用いて、まとまりのある内容を話すことができる。

3　単元の評価規準

ア　知識・技能	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に学習に取り組む態度
①　人称代名詞を用いた文、接続詞 because の使い方・意味を理解している。 ②　自分と相手以外の人について、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話す技能を身に付けている。	①　自分の好きな人物について、簡単な語句や文を用いてその人なりの話題に沿ってまとまりのある内容を話している。	①　自分の好きな人物について、簡単な語句や文を用いてその人なりの話題に沿ってまとまりのある内容を話そうとしている。

4　指導観

⑴　単元観

本単元は、中学校学習指導要領（平成 29 年３月告示）第２章　第９節　外国語　第２各言語の目標及び内容等　英語　１　目標　⑷　話すこと［発表］

イ　日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。

また、同２　内容〔知識及び技能〕　⑴　英語の特徴やきまりに関する事項

エ　文、文構造及び文法事項 (ｳ)　文法事項 a 代名詞 (a) 人称や指示、疑問、数量を表すもの b　接続詞

及び、同２　内容〔思考力、判断力、表現力等〕　⑵　情報を整理しながら考えなどを形成

し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項

ウ　日常的な話題や社会的な話題について、伝える内容を整理し、英語で話したり書いたりして互いに事実や自分の考え、気持ちなどを伝え合うこと。

さらに、同２　内容　⑶　言語活動及び言語の働きに関する事項

①　言語活動に関する事項 オ　話すこと［発表］ (ｲ)　日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどをまとめ、簡単なスピーチをする活動。 ②　言語の働きに関する事項 イ　言語の働きの例 (ｳ)　事実・情報を伝える ・　説明する　　・　発表する

を受けて、単元の最終段階では、自分の好きな人物やキャラクターについて、視覚資料を活用しながら、まとまりのある内容を学級の仲間に向けて発表することを単元の目標とした。

⑵　生徒観

「話すこと」の活動に積極的に取り組む生徒も多く、歌などの帯活動にも積極的に取り組んでいる。一方で、英語の使用に自信のない生徒も多くいるため、小学校で習った表現を復習し、簡単な言葉で自分のことについて話す練習を１学期に行った。

「話すこと［発表］」の学習について、自己紹介スピーチでは、小学校段階で習得した内容を含めて、自信をもって発表をしている生徒が多く見受けられた。今回はまとまりのある内容での発表を単元の目標としているため、文章の羅列ではなく、相手に自分の好きな人物のことが伝わるように、一貫性のある文章を話すことができるようにする。

⑶　教材観

本単元は、教科書の登場人物のアーニャがケニヤに住むジャクソンを紹介している教材である。小学校の既習事項の復習を終え、自分と相手以外のことを簡単な語句や文を用いて他の生徒に話す発表を言語活動として設定した。

単元の最終段階では、教科書を通して学習した表現を基に、次のように人物(キャラクターを含む)紹介を目標とする。

（例）

Look at this picture.
Let me tell you about ○○○.
He is brave and strong.
He has many good friends because he often helps them.
So I like him.

５　年間指導計画における位置付け

	単元名	学習内容
4	Get Ready	「話すこと［やり取り］」
	Program 1 友だちを作ろう	「話すこと［やり取り］」
5	Program 2 Our New Teacher	「話すこと［やり取り］」
6	Program 3 Club Activities	「聞くこと」
7	Our Project 1 あなたの知らない私	「話すこと［発表］」
	Power-Up 1 ハンバーガーショップへ行こう	「話すこと［やり取り］」
9	Program 4 Let's Enjoy Japanese Food.	「話すこと［発表］」
10	Program 5 Pajama Day	「書くこと」
	Power-Up 2 持ち主をたずねよう	「聞くこと」
11	Program 6 The Way to School	「話すこと［やり取り］」
12	Program 7 Research on Australia	「書くこと」
	疑問詞のまとめ	「話すこと［やり取り］」
	Power-Up 3 学校案内をしよう	「話すこと［やり取り］」
1	Our Project 2 この人を知っていますか	「話すこと［発表］」
	Program 8 Happy New Year!	「書くこと」
2	Power-Up 4 ショッピングをしよう	「話すこと［やり取り］」
	Program 9 A Trip to Finland	「読むこと」
	Power-Up 5 インタビューを聞こう	「聞くこと」
3	Program 10 Grandma Baba's Warming Ideas!	「読むこと」
	Our Project 3 私が選んだ１枚	「話すこと［発表］」
	Power-Up 6 絵はがきを書こう	「書くこと」
通年	単元テスト	
	定期考査	
	パフォーマンステスト	

６　単元の指導計画と評価計画（全８時間）

時	目標	○学習内容　・学習活動	評価規準 （評価内容）
第1時	本単元の最終的な言語活動を知り、学習の見通しをもつ。	○　言語活動の見本提示 ・　Tuning を利用して、最終的に行う発表の仕方を知る。 ・　人物紹介のスピーチについて、どのような要素（①紹介する人物等、②その人物等についての解説、③私の考えや気持ち）を伝えているのかを確認する。	ウー①（観察、ワークシート）
第2時	Part 1 と Part 2 の対話文を応用して、「ジャクソンについての紹介」の発表の仕方を学ぶ。	○　教科書を用いた人物紹介例の提示 ・　Part 1 と Part 2 を通して読み、概要を掴む。 ・　その概要をまとめた発表文（対話文を叙述文にリフレイズした文）を示し、言語活動で目指す表現例を学ぶ。	アー②(観察、ワークシート、スピーチ)
第3時	自分の好きな人物等を選ぶ。	○　グループによるブレインストーミング ・　グループで、それぞれ自分の好きな人物やキャラクターを出し合って、その理由などを自由に話し合う。 ・　各自が発表する人物等を決め、発表に関連する語彙等を調べ出す。（難しい英語は日本語の注釈を付すことも認める）	ウー①(観察、ワークシート)
第4時	人物紹介のスピーチを構想する。	○　発表の具体的な表現方法の理解 ・　Action を用いて、最終的に行う発表の具体的な表現の仕方を知る。 ・　発表する構成要素を確認し、それを英語で表現するためのパターンを学ぶ。	アー②(観察、ワークシート、発表)

第５時	人称代名詞の使い方や接続詞 because を用いた理由の述べ方についてまとめを行う。	○　人称代名詞と接続詞 because の形と用法の学習 ・　Scenes を参考にして、接続詞 because の使い方を理解する。なお、節ではなく文で用いる接続詞としての便利さも強調する。	アー①(ペーパーテスト)
第６時（本時）	人物紹介のスピーチをより良いものにする。	○　内容の修正・推敲 ・　グループ単位で仮発表を行う。 ・　中間評価を実施する。 ・　各自で、内容の修正・推敲、発表方法の工夫を行う。	アー②（観察、スピーチ) ウー①(観察、振り返りシート)
第７時	人物紹介のスピーチを行う。	○　発表（スピーチ) ・　メモやスライドを用いて人物紹介スピーチをする。 ・　聞いている生徒は、相互評価用紙に採点と感想をメモする。	イー①(観察) ウー①(観察)
第８時	スピーチのまとめを行う。	○　発表のまとめ ・　グループ単位で、発表した人物に関する質問等を行う。 ・　相互評価用紙を用いて、お互いの感想を話し合う。	ウー①(観察、ワークシート)

7　指導に当たって

ア　自分と相手以外の人物について知ってもらうために、相手に伝わるよう工夫した文を考えることで「主体的な学び」を促す。

イ　生徒同士がペアやグループで互いにアドバイスを伝え、意見交換することで「対話的な学び」を促す。

ウ　生徒同士がペアやグループで互いにアドバイスを伝えたり中間評価を行ったりして、より良い発表に再構築することで、「深い学び」につなげる。

8　本時（全８時間中の第７時）

⑴　本時の目標

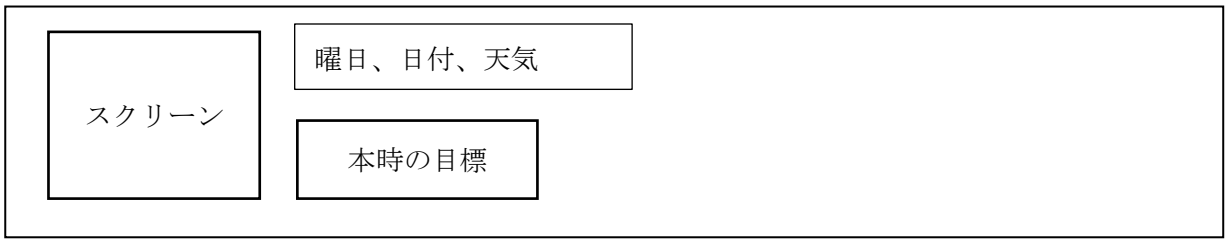
人物紹介のスピーチをより良いものにする。

⑵　本時の展開

時間	○学習内容　・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準（評価方法）
導入 （８分）	○　挨拶 ○　歌 本時の目標：他者紹介スピーチを発表し、より良い発表に向けての工夫について考える。	・　英語の授業の雰囲気をつくる。	
展開① (30 分)	○　仮発表 ・　自分の用意したスピーチを４～５人１組のグループでお互いの発表について、率直に感想を述べたり、より良くするためのアドバイスを与えたりする。 ○　中間評価 ・　指名生徒が前に出て発表する。	・　スライドを見ながら、自分の言葉で好きな人物を紹介できるようにし、意欲をもてるようにする。 ・　発表をより良くするためのアドバイスの視点として、内容面では、①「興味ある紹介（なぜこの人物を選んだかが分かるような）だったか」や②「分かりやすい英語（構成要素が整っていたか）だったか」を、表現面では、①「写真や絵の活用」、②「アイコンタクトやジェスチャーの利用」、③「聞きやすい英語の使用」を、それぞれ項目毎に前もって示しておく。 ・　机間指導しながら、内容面と表現面で、他の生徒に気付きを促すような生徒を選んでおく。	アー② 自分の好きな人物について、簡単な語句や文を用いてその人なりの話題に沿ってまとまりのある内容を話している。 （観察、スピーチ） ウー① 自分と相手以外の人物について、簡単な語句や文を用いて他の生徒に話そうとしている。 （観察）
展開② （７分）	○　スピーチの推敲、練習 ・　自分のスピーチを見直	・　進捗状況を確認すると	

	し、内容の再考や発表の改善に向けて練習する。	ともに個別の質問や相談に応じるよう、机間指導を行う。	
まとめ （５分）	○　振り返り ○　挨拶	・　振り返りの記入	

⑶　板書計画



⑷　授業観察の視点

イ　生徒同士がペアやグループで互いにアドバイスを伝え、意見交換をさせることで「対話的な学び」を促していたか。

ウ　生徒同士がペアやグループで互いにアドバイスを伝えたり中間評価を行ったりして、より良い発表に再構築することで、「深い学び」につなげていたか。